

# 厚生文教常任委員会会議録

平成20年11月11日(火)

(開 会) 10:00

(閉 会) 12:04

## ○ 委員長

おはようございます。ただいまから厚生文教委員会を開会いたします。

「認定第18号 平成19年度飯塚市立穎田病院事業会計決算の認定」についてを議題といたします。

初めに、監査委員に対する質疑を許します。質疑はありますか。

( 質疑なし )

監査委員に対する質疑を終結いたします。

次に、本案に対する質疑を許します。質疑はありますか。

## ○ 楡井委員

おはようございます。それでは、若干質問させていただきたいと思います。

まず、当初予算で予定されていた患者数と決算の数ですね。これを報告していただきたいと思います。一応、資料が出ておるようですから、それを説明してください。

それから、同時に、途中で補正が行われましたが、それで補正された患者数ですね。それと決算の数、このことについて御報告願いたいと思います。

## ○ 健康増進課長

19年度の当初予算で予定されておりました患者数につきましては、入院患者数ですが、2万4,500人、外来患者数5万人、計7万4,500人を想定しておりましたけれども、決算におきましては、入院患者数1万8,572人、当初予算比で24.2%減、外来患者数3万2,329人、当初予算比35.3%減、計5万901人、当初予算比31.7%減となっております。

また、補正予算で予定されておりました患者数と決算の数でございますが、補正予算におきましては、入院患者数1万9,370人、外来患者数3万3,450人、計5万2,820人を想定しておりましたが、決算におきましては、入院患者数1万8,572人、補正予算比4.1%減、外来患者数3万2,329人、補正予算比3.4%減、計5万901人、補正予算比3.6%減となっております。

## ○ 楡井委員

これは、予算の審議、それから、補正予算の審議で、私が指摘していたとおりの状況になっている今の結果だというふうに思います。

それで、これがその修正、修正といいますか、どういうふうな努力をされたのかということについて決算書の数字に基づいて少しお聞きしたいと思います。

決算書の2ページに医業収支があります。結局、2億3,208万3,700円ですか、そういう支出超ということになっておる。つまり赤字ということになっていきますけれども、そういう数字でしょうか。

## ○ 健康増進課長

医業直接の損失につきましては、言われるとおり2億3,200万円ほどの赤字となっております。

## ○ 楡井委員

それでは、次いで4ページなんですけど、前年までの赤字の累計として、累積赤字として4億2,440万円余りになっています。それが、先ほど言いましたように、今、答弁がありましたように、19年度の赤字が2億3,280万円余り、赤字に赤字が重なってるわけですが、結果的には、平成19年の累積赤字は1億5,700万円余りに減少しています。この原因を説明

してください。

○ 健康増進課長

18年度までの、前年までの累積赤字4億2,400万円ございます。また、当年度の赤字として医療収益減というのがございますけれども、それが、累積赤字1億5,700万円になっているという原因でございますが、19年度の補正予算におきまして、一般会計から運営資金4億2千万円を繰り入れられておりますことから、19年度の未処理欠損金が減少している次第でございます。

○ 楡井委員

2億3,280万円の19年度の医業収入だけでは、差し引き今言った数字の赤字けれども、一般会計から4億2,075万円ですか。これが繰り入れられたので、累積の赤字は1億5,700万円余りというふうに減少したということですね。

それでは、この1億5,700万円余りの赤字は、ことし最終年度ですから、どのような処理をされるのかについてお聞きしたいと思います。

○ 健康増進課長

病院事業会計につきましては、複式簿記を採用しているため、実際のお金の動きに加えまして、金銭を伴わない金額、帳簿上の金額の動きが加わります。例えば、固定資産の減価償却費は、医業費用の支出として19年度で2,400万円計上いたしておりますけれども、実際には1円も支出というものはございません。

この現金のみに着目いたしまして計算いたしますと、19年度決算におきましては、最終的には現金、預金残4,445万2千円、未収金、これは主としまして2月、3月の医療費になりますけれども、8,538万8千円、未払い金3,263万円、差し引き9,721万円となりますが、これらの金額につきましては、一般会計に引き継いでおるところでございます。

このように、1億5,700万円の当年度未処理欠損金は、帳簿上の金額でございまして、その処理につきましては、資本剰余金、これも帳簿上の金額となりますけれども、この資本剰余金を繰り入れることによりまして処理いたしております。

○ 楡井委員

実際のお金と帳簿上だけのお金ということで、なかなか素人にはわかりにくい数字なんですけれども、結局、本病院会計のこの何年間かを見てみますと、実際の金額といいますか、今まで私たちが理解してきた関係では、平成17年度以降の赤字というのが非常に多かったというふうに記憶しております。その累計が6億5,700万円余りになってきたんじゃないかというふうに思うわけですね。今言ったように、合併以来の金額であるというふうに思うんですけれども、そういう記憶でよろしいでしょうか。

○ 健康増進課長

約6億5,700万円につきましては、18年度の未処理欠損金約4億2,400万円と19年度の医業収支の赤字約2億3,300円の合計額でございますけれども、未処理欠損を比較いたしますと、17年度決算では約1億4,800万円であり、19年度決算では、4億2千万円を繰り入れなければ5億7,700万円となり、急激に増加しております。この原因につきましては、医師の減少により患者数が減少したことによるものと考えております。

○ 楡井委員

医師の減員のところまで今言われましたけど、結局6億5,700万円ぐらいの累積赤字になりまして、それに4億2,075万円の一般会計からの繰り入れ、税金ですね。そして、帳簿上の処理が1億5千万円というような――1億5,700万円ですか、というようなことでこの会計とじるわけですが、結局、貸借対照表6ページから7ページにかけての貸借対照表にあらわれていますけれども、現在の穎田病院の資産という数字は幾らになりますか。

○ 健康増進課長

飯塚市の顚田病院の事業貸借対照表で申し上げますと、資産の合計につきましては、約3億8,100万円ほどになります。

○ 楡井委員

この3億8,189万6千円という、この数字なんですか。この数字でいいんですかね。

○ 健康増進課長

そのとおりでございます。

○ 楡井委員

結局、約3億8,200万円の金額が麻生グループの博愛会に無償で提供されるというふうに理解をしようございますか。

○ 健康増進課長

博愛会へ無償譲渡いたしました物件につきましては、6ページをちょっとごらんいただきたいんですけども。この中の固定資産、全体から土地を除いた資産、つまり建物、構築物、機械装置などとなります。また、2の流動資産の中の(3)の貯蔵品ですが、を無償譲渡しております。これらの建物等も含めまして、これらの残存価格につきましては2億3,800万円ほどになります。

○ 楡井委員

3億8,200万円ぐらいのところから土地の金額と貯蔵品を引くんですか。それでも2億8千万円ぐらいにはならないような気がしますけど、どうですかね。

○ 健康増進課長

この中でございませぬのは、土地と現金預金、未収金でございます。

○ 楡井委員

3億8,200万円から現金と未収金と土地を除くと、こういうことでいいんですね。それが、2億8千万円ぐらいということになるわけですね。この2億8千万円が麻生グループに無償で渡されるということになるわけですね。

これには、土地を10年間貸すと、無償で貸与というようなことになりますから、それも一定の財産ということになれば、それなりの金額が要ということになると思います。

○ 委員長

ほかに質疑ありませんか。

○ 江口委員

今、土地無償貸与って言ってましたけど、有償でしたっけ、どうでしたっけ。無償貸与でしたっけ。ちょっと確認のためお聞かせください。

○ 健康増進課長

土地につきましては、10年間無償貸与、その後、有償で売却というふうに契約上なっております。

○ 江口委員

ありがとうございます。1点確認させてください。

見込みが大幅に違うのは、反省があつてしかるべきだと思っております。その点については後で触れますが、在庫について、医薬品の在庫について、昨年度の厚生文教委員会の中で途中棚卸し、9月の棚卸しの時点で1千万円の在庫があるというお話がありました。そのときに、その分を有償で引き取ってもらうかどうかというお話をしたら、それについては無償で渡すというお話でした。ただ、これについては、在庫を減らす努力をしないといけないうねっていうお話をさせていただきました。現状において、現状においてっていうか、この決算において在庫はどこまで圧縮なったのかお聞かせいただけますか。

○ 健康増進課長

棚卸しを、19年の9月に棚卸しをいたしまして、誤りににつきましては訂正させていただい

ておりますが、その訂正した分でお答えいたしますと、18年度の当初の残高につきましては1,385万円ほどの在庫、貯蔵品がございまして、3月最終では588万円ほどになっております。

○ 江口委員

この薬品については、一定程度の努力がなされたのかとは思っています。ただ、先ほど言いました予測ですね。当初予算を立てたときの数字と補正のときでもお聞きしたのですが、現況では本当に違うわけです。それに対してどのようにお考えになるのかという点を補正の時点でお聞きしましたら、その点では明確なお話がございませんでした。決算になるわけですが、最後、穎田病院を閉めるに当たって、そういった部分についてどのようにお考えになるのか、お聞かせいただけますか。

○ 健康増進課長

穎田病院につきましては、当初13年度ぐらいまでは黒字経営でございましたけれども、医者の減少に伴いまして患者数が減少いたしております。それにつきまして、一般会計から多額の金銭を穎田病院に繰り入れていただいたことにつきましては、いろいろ御迷惑かけたことにつきまして感謝申し上げます。

病院事業につきましては、病院事業運営非常に厳しい状況にありますけれども、公営事業としての独立採算というのが基本でございまして、赤字にならない努力しなくちゃなりませんけれども、このような趣旨で当初予算を組み立てて努力してまいった結果でございますので御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○ 江口委員

前回同様、ここには反省の弁がないというところではいいんでしょうか。その点についてはどうなんでしょう。

○ 健康増進課長

努力した結果、当初予算に比べて非常に減少して、その結果として4億2千万円の繰り入れをして閉じさせていただいたことにつきまして大変申しわけなく思っております。

○ 委員長

ほかに質疑はありませんか。

( な し )

質疑を終結いたします。

討論を許します。討論はありませんか。

○ 楡井委員

この穎田病院の会計については、飯塚市になって何度か討論をしてきましたけど、結局、患者数その他運営については、いつも過大な見積もりで粉飾決算のような形で予算も組み決算もされてきたということを年々歳々指摘をしてきました。

今年度のこの19年度決算についても同じような状況が続いていて、当初立てた予算を大幅に修正する。修正してもなおかつ思った方向にはいかないという結果になっています。

これが、患者さんのほうからだけの問題というふうにとらえた場合、お医者さんの数が足りないというようなことが再三言われるんですけども、確かにそれも大きく影響してると思いますが、国の医療方針についてもやっぱり考えていかにやいかんじやないかなというふうに思うんですね、今、反省の弁が求められましたけど。やはり国の診療報酬の改定等が行われて病院の経営が苦しんでいる状況も一定の範囲大きく影響しているんじゃないかというふうに思います。

そういう意味では、そういう全体の国の医療方針、その他医療全体を見て、やっぱり方針を立てていかなきゃならない。議会の指摘についても考えていかなければならなかったんじゃないかというふうに思います。そういう意味では、かわられたばかりの課長で大変申し上げます。

くいんですけれども、やはりこの穎田病院の運営については、4億2千万円もの税金を突っ込まんやいかんというような状況を生んだことについては、やっぱり無策過ぎるんじゃないかというふうに指摘したいというふうに思います。

このことは、今年度から筑豊労災病院が市民病院というふうになりました。運営の一切を地域協会に任せてるということになるんですけれども、後ほど質問をしますが、この病院運営のほうへ大いに生かしていかんやいかん、この教訓を、いうふうに思います。したがって、この決算には、認定できない態度表明としたいと思います。

○ 委員長

暫時休憩いたします。

休 憩 10：20

再 開 10：25

○ 委員長

討論はありませんか。

( 討論なし )

討論を終結いたします。

採決いたします。「認定第18号 平成19年度飯塚市立穎田病院事業会計決算の認定」について認定することに賛成の委員は挙手を願います。

(挙手 賛成多数)

賛成多数、よって、本案は認定すべきものと決定いたしました。